三条市租税教育推進協議会長賞

税金の使い道

三条市立第二中学校　三年　与斉（よさい）　美香瑠（みかる）

皆さんは税についてどの様なイメージを持っているでしょうか。私自身はあまり良いイメージは持っていません。理由は、税があると、通常百貫えるお金が、九十になってしまったり、九十払えば良いところを、百払わなければならなくなったりして、何となく損をしている気持ちにさせられるからです。

ですが先日、社会科の授業内で行われた租税教室で、税金の役割について学ぶ機会がありました。

例えば救急車。突然具合が悪くなったり、事故に巻き込まれたりした際には素早く駆けつけてくれます。しかも無料で。国民全員が利用できるサービスがなぜ無料なのか、以前から疑問に思っていたのですが、それが税金でまかなわれていると知りました。また、ゴミ収集や道路の整備も全て税金が使われていました。経済的な問題とは関係なく、全ての人が利用できる事は、とても良いところだと思いました。

これらは税金の使われ方の一部ではありますが、国民が支払う税金というのは、全て自分達のための様に思えてきて、良いイメージを持ってなかった私にとっては、違う視点を与えてもらった気がしました。

しかし、国民が払った税金をそのまま給料としている政府の方々が、そのお金で仕事ではなく旅行に行っていたというニュースを知り、とてもショックを受けました。国民が支払っている税金を、私的な理由で使われる事はあってはならない事です。こんな事では、ますます税金へのイメージが悪くなってしまいます。そこで、どの様な税金の使われ方なら、良いイメージを持つ事ができるかと考えてみました。

私達の住む国日本は、他国と比べ自然災害が多い国です。中でも記憶に新しいのは、東日本大震災。二〇一三年三月一日時点で復興に使われている税金は三十二兆円です。もしこの先、これ以上の震災に日本が遭ってしまった時、すぐに大金を用意するのは決して容易な事ではありません。だから私は、日本が今の内から貯金を始めて、大規模な災害に備えてはどうかと考えました。日本国内だけでなく、外国が大変な事態に見舞われた時でも貯金を行っていれば、助ける事のハードルも下がると思うからです。自分達の未来の安全や命を守るための備えをしていく事で、国民の税に対してのイメージは大きく変わるのではないかと思いました。

九十払えば良いところを百払わなければならない税ですが、視点を変えれば、自分が助けられたり、安心して暮らすためのサービスが受けられたりした結果、満足のいく百になるかもしれません。

損をしていると感じた十が、どの様な形で戻ってくるのか、これからはよく見ていきたいと思っています。そしてこの十が、私達に良い影響を与えてくれることを望みます。